

## 社会工学系

教員数	教員等数 (人)	教授 45 (45)	助教授 29 (27)	講師 29 (27)	助手 2 (2)	技官〔準研〕 — (—)	
	異動状況 (人)	退職・転出 8 (11)	昇任 1 (5)	採用 13 (8)	学内 — (—)		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			
		国内	国外	国内	国外		
		156 (127)	85 (78)	172 (150)	76 (87)		
	受賞数(件)	2 (9)					
	研究費等		採択件数	採択率(%)	金額(千円)		
		科学研究費	50 (53)	56 (59)	76,600(90,400)		
		学内プロ	22 (18)	52 (47)	19,950(18,970)		
奨学寄附金件数・金額		13件	13,150千円	(26件	26,610千円)		
受託研究件数・金額		12件	57,143千円	(13件	41,156千円)		
	受託研究員	人 (人)					
施設・設備							

・ ( ) は前年度の数値を示す。

### 1 社会工学系の活動

#### (1) 教育活動

本学系から教員を派遣している教育組織は、第三学群の社会工学類と国際総合学類、修士課程の経営・政策科学研究科、環境科学研究科および地域研究科、博士課程のシステム情報工学研究科、人文社会科学科およびビジネス科学研究科である。また、大学研究センター、産学リエゾン共同研究センター、留学生センターにも若干名を派遣した。

#### (2) 研究活動と国際交流

本学系の研究活動は、平成15年度も全分野にわたって活発であった。国内外論文・著書発表数、国内外学会発表数は2月6日までのデータであるが、国外学会発表数以外は既に平成14年度を上回っている。学系発行のDiscussion Paperは、2月6日までで47篇(平成14年度は47篇)であった。競争的研究資金の積極的導入に努めた結果、科学研究費、学内プロジェクトの採択件数および金額は、科学研究費については減少したが、学内プロジェクトについては引き続き増加している。受賞は2件(平成14年度は9件)であった。

国際交流協定を結んでいるのは、韓国漢陽大学校、清華大学、韓国国土研究院、アデレード大学、南オーストラリア大学、南オーストラリア・フリンダース大学、ウィーン経済・経営大学、およびザンクト・ガレン大学(スイス)である。これらの大学とは若干名ながら、研究者および学生の交換が続いている。外国人研究者の受け入れと教員の海外派遣は極めて多く、研究交流が盛んであることを示している。

### 2 自己評価と課題

本学系は教員の流動性が極めて高く、それに伴い採用・昇任人事が活発に行われている。平成15年度は採用者の多さが顕著で、その数は学系構成員数の12%強に当たる。モビリティの高さは人事に投入する労力の龐大さも意味しているが、平成15年度も優秀な人材を確保・維持するために、審査付学術論文を重視した業績評価を基礎として、開かれた透明な人事に努めた。